

俳諧之連哥

中村俊定文庫

文庫 18

938

3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



宗匠点割例式

一蜂

風體極廿

至極十六

画極十四

秀至十二

逸至十

金至八

銀至六

銀長五

彩長四

朱長三

烏長二

無倫

金枝葉廿三

玉葉十七

雪月十五

神鏡十三

白圭十一

清光九



望月七 有明五 長三

星二

嵐雪

百花好語十 墜玉簪八 弄晚涼七

翠盖六 探荷五 探萼四

長三 玉二

立詠

錦上加卷十五 蜀江錦十二 吳綾十

金章八 金綺七 玉聯六

珠五 琢四 朱三 長二

沿溯

東閣十 江南七 野梅五

長三 九二

不角

無上寶忘數應句 天心月十五

神妙十四 秀逸十三 無極十二

太極十一 銀漢十 九曜九

蒼溟八 龜背六 俊六

烹采^五 英^四 朱^三

日葉^二 長^二

介我

七字^{十五} 五字^十 三字^七

二字^五 一字^四 長^三

九^二

沾德

余毫^{十五} 印揮毫^十 余朱^七

朱五 長^三 九^二 珍^一 半

杜格

五字^{十五} 三字^十 二字^八

殷^六 朱^四 長^三

九^二

調和

賓主寫胸襟^{十五} 以靜為用^{十二}

紅絲石^十 濃香^九 兩朱^八

薄^七 澆^六 兩^五 增^四

朱^三 長^二

桃隣

安母成哉廿 岡玉木十五

三平一平十二 白字留里十

金魚袋八 銀魚袋七 紫塵六

紅藍五 朱四 長三

秀和

五字廿 四字十五 三字十二

二字十 金菊八 銀梅六

紫藤五 紅葉四 長三

九二

笑風

十分不十七 楊樞十九 楊樞十

四靈經九 雖加玉琴原數不增 蝸篆八

金飄七 銀壺六 烏鳳五

蠅字四 朱三 長二

銀主
全屬
美風

銀主

幸の梅紋

衣紋

肩輿

すい

松折の月十座席の一握握精

引登りソコ底溜新酒賢

あはれアハレのちい人コト被カ杖ツのツ蛇ヘ友

順礼ツ札ツとツ綱ツのツ全ツ札ツ精

不老不死名醫の氣精七加減賢

全

扇ア結ツ解ツ意ツ小ツ進ツ意ツ友

侍シ女メの里居ツにツ紐ツ加羅ツのツ櫛ツ精

美ツのツ双ツ六ツ才ツのツ踏ツ打ツ賢

三極

時を待たずの隠し題友

銀堂

玄趣是ありの月代精

追はの^{チカケ}極^{カケ}の^{カケ}次^{カケ}賢

聖社^{カケ}ありて^{カケ}花^{カケ}の^{カケ}地^{カケ}不^{カケ}友

此も^{カケ}皆^{カケ}領^{カケ}主^{カケ}の^{カケ}館^{カケ}の^{カケ}志^{カケ}精

瘦^{ヤセ}疲^{コケ}く^{カケ}る^{カケ}も^{カケ}志^{カケ}の^{カケ}賢

二
是^{カケ}網^{カケ}を^{カケ}室^{カケ}に^{カケ}て^{カケ}猫^{カケ}を^{カケ}襟^{カケ}友

秀全

加^{カハ}留^メ多^{カケ}に^{カケ}橋^{カケ}崩^{カケ}す^{カケ}總^{カケ}角^{カケ}精

唐申詩既白ねとと具に也賢

障子あなれはく内局友

唐の入はは(か)きる地用精

意、其なる魚の性雄賢

屯桶の芙蓉いさ人桔梗賤友

古ゆる流よ美奈業精

月より詠よ瓶の火をとて賢

石象の控よあすまは友

賢者に交るるは賢者を知る如し

善に必ぬの邪能あり賢

春の多雨潤くも泥融ミカリ友

浪士波士討討つる清浄の波僕ヒコ精

羊崩ヤウボウと名はるる花ハナと賢

金至

標ヒラキ子コ海ウミる浪なみ乾カラくく友

世ヨにニかたむかへて京キョウの町マチ精

徳トクとくも江戸エドの世ヨに賢

壬子季五

各十二句言

倍六十四
十一點內

至極一 逸至一
全至二 銀至一
朱長四 烏長三

露友

倍六十四
十一點內

至極一 秀至一
銀至二 銀長一
彩長四 朱長一
烏長一

露精

倍二十八
十一點內

彩長二 朱長三
烏長五

支賢

望月
梅河の油髪のおのり子賢

蛇の目よしののり子賢

有明
二月四日雛の雑仕傭子賢

夕月早く熱水醜酒賢

鶯いづもや封疆の世評花友

櫻
梅河の油髪のおのり子賢

字一徳の魂を言説等世賢

少き社池のまのり子賢

皇月
治まふ縣司の威に伏し精

能
山に坐す地割の割賢

轉
先嘆の乃京女佐友

集
入たる者の中を臥精

空
瓜飛翔の味をゆゆし賢

林
のあまみ寺町乃時友

月
さかすまをてんてん精

銀
錠とるてんてん賢

茶題の法方花の気合之友

茶の物も膝のむ暮精

錦袖どなり如の由為賢

花法雪月花の事書か無支

山厨小儲の客の氣あけり精

唐掃の屋の平坊 歸賢

唐書の経も木魚の吹の友

茶籠のりも字法の極詰精

深神鏡萬馬の凡の垢を世帯賢

鶴明啼一むせ文のを常友

ふ初き火お影をて月精

小有明秋の羽織人目ちく袖賢

風舞光の子々小菴翁まへ松く友

霧有集有屋字の定紋精

法有明は武運や行後塵の増賢

比叡有功しんふ位の檢非違使友

高麗の道湖水の白浪の精

清書の巻にわら幕の衣賢

桑の木の文を煙草入支

心こころの書しよ涼納すずなくは精せい

四月念六鳥

各十二句言

倍三十七
九點内
神鏡一 望月一
有明二 長一
友賢

倍五十五
昏點内
雪月各一 白圭一
清光一 有明一
長二 星三
露友

倍二十九
十點内
望月一 有明一
長三 星三
露精

一劃長星の麟引
露精

入河のいも蛇の首人全友賢

氣標心下流治の嶽や露友

楊活ウツド振モト奴ウツに問ト茶チヤ茶チヤ精

探荷
夕月の影 兎の懐胎こころして 賢

羊家守 仙の火内と 友

探荷
花の輪 環わりて 六秋一葉 精

探荷
雪常観とく 五枝の秋 賢

探荷
玄窟の付字し 塩校魚カマス 友

探荷
木曾河の竹走しん ゆく 玉味たま 精

弄院涼
芝解し 藤の切き 葉は 友 賢

風かぜの唾つば 十時じゅうじの 石卜いし 友

美^ミの^ノ買^カひて^テ奥^ウ松^ソ号^{ゴウ}と^スる^ル意^イ量^{リヤウ}精^{セイ}

在^在阿^阿の^の門^ノは^ハ建^{ケン}外^{トウ}敷^{シキ}系^{ケイ}賢^{ケン}

南^南の^の山^ノは^ハ幼^{ユウ}の^の布^フ施^シの^の光^{クワ}支^シ

之^之食^{シキ}の^の肥^ヒ伊^イ智^チ人^{ニン}是^シ精^{セイ}

散^散後^ゴの^の丸^ワを^ヲ月^{ツキ}と^ト形^{カタ}と^ト賢^{ケン}

清^清く^クせ^セも^モ名^ナを^ヲう^ウる^ル菊^{キク}友^{トモ}

意^意す^スふ^フの^の地^チ意^イ座^ザの^の妙^{ミウ}精^{セイ}

美^美の^の好^{コウ}の^の白^{ハク}ね^ネ性^{セイ}賢^{ケン}

山園（三）竹（三）花（三）な（三）る（三）二（三）は（三）か（三）友

お（三）松（三）も（三）魚（三）の（三）目（三）精

世（三）を（三）知（三）る（三）繡（三）絹（三）の（三）袴（三）の（三）綜（三）緝（三）鉄（三）賢

その（三）ま（三）の（三）よ（三）武（三）士（三）の（三）零（三）落（三）友

土（三）大（三）根（三）の（三）よ（三）の（三）ぬ（三）こ（三）痛（三）の（三）虫（三）精

情（三）の（三）ま（三）も（三）を（三）薦（三）池（三）の（三）家（三）賢

煩（三）悩（三）の（三）月（三）の（三）し（三）る（三）若（三）比（三）危（三）友

茶（三）の（三）あ（三）ら（三）と（三）菅（三）根（三）の（三）根（三）精

一里塚として名所の初め賢

風の精霊の羽搏きは端々

威すま業山子務むが精

関の書且寐は旅人僧賢

邪淫ははお破る館酒蔵友

泥めとやまて受し念精

花の精花の控よお況し賢

古半物徳春の古友

姑洗下六

各十二句言

倍三十二

九點內 翠蓋二 探管三
長二

露精

倍三十二

九點內 弄晚涼一 翠蓋二
探荷一 玉四

支賢

倍二十九

十一點內 墜玉簪一 探荷一
探管一 長一 玉二

露友

牛起統牡丹窩誘郭么友賢

有栢
牡丹友

寫

東坡五聯學前筆句露籍

多晴珠日江高の星集未變

體嶺知月の有閑賢

羅琢兄の器松お店り手精

羽織江河折新酒の醉友

雲越と地の風勢賢

中未はあらはの婦を精

金綺
細布や誰の裳に帯はるる友

入栴短人魚遊々一賢

五鱗
泊まらぬは福の海に舟の珍精

梅子角をく口説はる友
前可也

仙羅を飄然と芭蕉の精の賢

清経の淋一枯の古寺精

夕月の嘆かむ生豆厨友

琢
富士の根をふる卒の休場賢

珠 袿袴の紅御繡のきつき精

蹴鞠の山園粗御守支

二

珠 袴のたる緑御繡のきつき精

又袴の戲のきつき精

珠 袴の中の中挿籠のきつき支

五 袴の比のきつき支

袴の掛のきつき支の樂系御精

菩薩の衣のきつき支

✓ 牧の約多る中のみま 驪賢

✓ 殿と生るふまのふ 精

✓ 山に岬よ急下沈織綾の紋友

✓ 念初子とトに能言前 賢

✓ 月を眠トぬ他トにト精

✓ 松折おほくはるの場塞友

✓ 舞の瘦て地は毛を地つ賢

✓ 蛙トのト金章
林乃味精

吳駿

雲母の世に推し寄る友

福定は方いふもは限賢

蘇詩の香房を茶葉子精

昔唯を去年は雪村友

孟夏下五

各十二句言

倍三十二

十點内 玉聯一珠一珠二
朱一長五

友賢

倍五十

十一點内 吳綾一金草一玉聯二
珠一珠二朱一
長一

露精

倍二十八

八點内 金綺一珠二朱二
長二

露友

唯の綜いも柏や雄餅 露霜

子如他方也
依如もうーや

高角の變艾 露友

さても名詞也

紅踏月は社高し 露友

家や小車は色肥より 精

江南梅

待て秋のふ乃名問シ茶拵支

橘ノ吹ツ越スをハ心ヲ安ル也ヲ賢

夷ノ秋ノ目ヲ見ルをハ徳ヲ信ス
精

玉ノ香ヲ散ル布ヲ子ノ古ノ友

江湖梅

大用ノ千ノ念ノ蟬ノ持ル也ヲ賢

新ノ濁ノ松ノ編ノ網ノ精

其ノ世ヲ行ハらズもハ松ノ又ノ良ノ友

自ノ精ヲ造ルとハ傾キ也ヲ賢

○ 後情 後情 なる小波のなほ精

菊に静世の音の付友

○ 小入 小入 月と星と良月賢

窓 窓 東階詩情 とは星精

花 花 錦竹の道に跡友

○ 墨 墨 墨の縁に陽光を賢

○ 白 白 白の昼鶴を了らぬ賢精

○ 薦 薦 白 白 白の京の竹に花の支

大おおのし
ちりしきふん
あしあつて

五、^子海に因りて因りて結全^子
野梅 賢

中、泉の聲うら題
精

嘉、^カ金十も^カ波^カを^カ掛^カ作^カ
友

七、^シ女も^シ向^シに^シ飾^シ淨^シ繡^シ
賢
こらふ代々

八、^ハ家^ハ月^ハは^ハ鑑^ハ入^ハ物^ハ世^ハ常^ハ精^ハ

九、^ク家^ク名^クの^ク名^クも^ク信^ク也^ク部^ク記^ク友

十、^ク新^ク物^クも^ク分^クて^ク六^クの^ク富^ク士^ク海^ク
賢

十一、^ク懐^ク葉^クよ^クつ^クも^ク後^ク意^クは^ク限^ク
精

野梅

夕方の金乾より二里霞

海軍にいらし河骨賢

越瓜の汁は酒のより清て露

小宮鳴する庭は花の全朝友

す月の形は初うぶ道の上賢

帆を秋舟の門より力精

ニキキキ

礼て春櫻の足は行支

振袖二人急麻子深賢

汲場あぶらの都みやこに今いま日ひ氣き之の精せい

伽羅伽羅の葉はの葱葱白白の葉はの精せい

茶茶と葉はと清清と水水の精せい也也

態態の厭厭足足の精せい

杜杜耳耳字字必必書書て出出包包也也

深深福福の部部と百百舌舌を以をて賢賢

月月の和和の清清濁濁の山山に日日精精

軒軒の油油の証証教教節節操操琴琴也也

空木見付し鞍と守狐賢

巖掘根光洞佛精

春の雪贈る草鞋と冷めて友

帆松い酒の香物賢

腰帯とあし禪襪と結縁精

忘し輝と文世塞姫友

節のなまより学下類例多賢

波のわたりある湯屋小縁精

世の拙弱^{チヂロク}の^オ成^{ナリ}又^{マタ}わ^カる^ル賢^{トシ}

米
土の租税^{ソノソウゼ}よ^クた^カる^ル富^{トク}賢^{トシ}

途^{ミチ}の^ノ過^スた^カる^ル知^チる^ル相^サた^カる^ル精^{セイ}

豪
ふ^クふ^クの^ノ優^{ユウ}越^{エツ}寒^{カン}の^ノ行^{ユク}友^{トモ}

論
水^{ミヅ}月^{ツキ}汲^ヒま^スぬ^ル氣^キと^ト没^{ボツ}炭^{タン}賢^{トシ}

米
ま^カぬ^ル早^{ハヤ}し^クゆ^クの^ノ名^ナ原^{ハラ}精^{セイ}

養
性^{セイ}言^{ゴン}の^ノ芳^{ホウ}徳^{トク}領^{リョウ}に^ニ浦^{ウラ}川^{カハ}友^{トモ}

鄰^{ナリ}の^ノ果^ミい^ハす^ルわ^カぬ^ル賢^{トシ}

香しき花の落し紙双紙精

頭巾脱ぎも雲乃改メ支

古法を人乃花布擇^{ヒタスケ}厨賢

梅と和漢乃題に第^{ハナ}のり精

林鐘季四

各十二句言

倍六十三

蒼溟二 筆背一

昏點內

俊二 豪四
英一 長二

露友

倍六十一

銀漢一 筆背一

昏點內

俊四 豪三
朱一

友賢

倍五十五

十一點內

無極一 俊二
豪四 朱三
長一

露精

新嘉十比用い道引運の敵露精

蘭よ自然に心大狂馬友賢

明長月家以巧環の松露

今酒飲一星の作り精

し 神道の神と牛の神とよき賢

神の言夜の神とよき賢

神の言夜の神とよき賢

神の言夜の神とよき賢

神の言夜の神とよき賢

神の言夜の神とよき賢

神の言夜の神とよき賢

神の言夜の神とよき賢

梅の香も春の情や猶精

小秋の何と法懸賢

夏は持以の清き月ゆて友

空の施丁去雲の本木精

花に鞠侍ももつる人列賢

交わりの蝶乃羽よりあふ友

春と跡をいふに春園し精

火にまよふ一雲は小車賢

神作 賽踏推 草逸 友

其の理口昇 生枝 訂精

紅綾裏 ちあせ 乳海の二重 深賢

引の 海志 向 吟 汗 友

其の石 杖 ちあせ ねの 流 登 亦 精

抱 ちあせ 月 七 塔 志 生 賢

沙 ちあせ 奴 償 競 深 樹 支

其の 細 ちあせ 巾 巾 の 足 深 精

漆シキ杭キ木皮キ葺キてハ先サキ刷シ賢賢

利リ休ヒのノ茶チ抄シウ者者誰誰のノ垣ケ友友

唐カウ判判のノ末マ尾ビ氣キ智チのノ心シン精精

者者にに借借もも未未だだかからら金金るるのの賢賢

十十のの花ハ大大葉エフ打ウてテ道ダウ友友

毛モウのの末マ尾ビのの津ジン尾ビのの星シン精精

藤フジ網コ飾シのの海ウミ老ロウのの二ニ幸コウ越エツ賢賢

味ミ為ウ嘗シヤウてテ一イチ斗ト時ジ米マイのの屠ト支シ

初炁仲旬

各十二句言

倍廿九

十點內

二字二長四

露精

倍廿二

十一點內

五字一字一長二九二

友賢

倍廿三

十一點內

三字二一字一長二長一

露友

三の義友の月夜に記す
子愛

灯臺を造りて
敬此
幸
露

夢文の秋のふれ
風呼て
友賢

井より鼻が
枯に
友

二の光の日記
記す
る
記
精

網海より
曝す
砂濱
賢

木凡の
記す
る
南の
家友

腰尻の
墨を
漬け
て
精

維三命三の末三終三て一三條三の精三賢

思原

札三を切三て一三片三を山三の男三友

怨何

化三地三を三家三を三劫三園三精三

半三の三道三を三と三過三十三垣三越三賢

尚三守三つ三ふ三善三鳩三や三作三は三新三友

芭三蕉三の三つ三ふ三兒三の三履三精

月三の三言三意三に三邪三魔三の三如三猿三賢

一三の三因三果三を三と三く三を三友

つら

久米松尾の情ほしきを為し精

中一の董とては法おし賢

二

武蔵中野雄子けり角田川友

産津糸一里北妻精

志村の書紙切て本綿け賢

ゆらり

高威と持ッ和音の勝方友

河津おれ亭は古厨目も肥ッ精

新門山紙巻く日乃久賢

武絶即軍の意脱を以て云友

輕レ樞レ授レもレ下レ火レ精

言物を月よちしむるは賢

綾子シクテタいふくは子シクテタ晚田友

柳レ梨レ花レをレしレらレんレがレ小南精

蛛の虎はよレ野レ乃レ却レ賢

目白の菊も走レるレ秋の松友

名レ流レ河レ經レ影レ法レ結レ精

各十二句言

倍三十七半

皆點內 即揮毫一餘朱一 露友

倍二十七

十點內 朱二長三 露精

倍二十六半

十一點內 餘朱一長一 友賢

脚布乾乾しお柴柴の競競うう女女の友賢

ケル女神好

知知ええ多多花花くくるる菊菊如如露露

月月言言相相比比所所何何のの春春能能了了露露精精

羽羽織織おおてていいああのの入入るる賢賢

○
白^{ビロウ}唐^{トウ}にも唐^{トウ}のさかかた^{カカ}大^{ダイ}将^{シャウ}友

不^フ淨^{ジヤウ}の海^{カイ}に深^{シホク}く真^{マコト}那^ナ登^{トウ}精^{シヤウ}

火^カの神^{カミ}小^コ玉^{タマ}の音^ネかきと
二^ニの^ノち^チり^リ

東^{トウ}の^ノ妻^メふ^フく^クる^ル舟^{フネ}の^ノ大^{ダイ}廻^{クハシ}舟^{フネ}賢^{ケン}

踏^{フミ}翠^{スイ}

○
小^コら^ラこ^コい^イて^テの^ノし^シり^リ小^コ鼓^コ友^{トモ}

風^{カゼ}海^{カイ}繪^エと掛^ケて板^{イタ}家^カの^ノ山^{ヤマ}柱^{ハシ}精^{シヤウ}

國^{クニ}の^ノさ^サを^ヲい^ハし^シる^ル羊^{ヒツ}の^ノ船^{フネ}賢^{ケン}

羊^{ヒツ}の^ノ船^{フネ}賢^{ケン}
始^{ハジ}り^リ

く^クま^マの^ノ部^ブに^ニ入^イる^ル河^{カハ}舟^{フネ}水^{ミヅ}を^ヲた^タれ^レ友^{トモ}

並^{ナラ}被^{カガモ}て^テし^シれ^レい^ハし^シる^ル石^{イシ}精^{シヤウ}

六枝は我狂吼と法亡目賢

其の苦言草草江戸の相成友

不川は海をなるとも神經精

流氏乃者心也 知この傾海賢

月なほ口説ころの露腕お云友

離別 竹わくく 古堂の正精

雛の子の雙羽^{モロ}乱て葉^{モロ}の賢

雪春寝たれし言ふも世心お友

肝の封と切しハ菴藁の化精

高子とぬりて三升譲る者ノ賢

スチキコト新ユキシの母コト想シ古今の秘ヒ傳ツ友

金五卷

未熟で①ぬるおとらり法精

とくくと②ぬる油の精③賢

七者と吐す④根⑤の⑥友

薄く⑦煮⑧茶⑨と⑩精

善⑪の⑫祇⑬ん⑭く⑮の⑯賢

名不記のしつゝの危清水文

系にぬきりし時を壽掃精

振尾姫の経合と不呼入賢

金五警

アツク又エ 黒方杖の掛りる友

シヤ 蓋にし掛者

山崎いふく子かほお作り精

糸綿腰十漆一花を賢

釣かよしものおしんかあひるさそ友

物ぬきし糸綿印雅精

傳母小程とい

季焮下六

各十二句言

倍四十一

十點之內

三字一
朱三
長二
九二

友賢

倍廿九

十一點之內

三字一
朱一
長一
九四

露友

倍廿六

八點之內

殷二
朱二
長二
九一

露精

兩
中平の回りの時の羽槍の愛

增
無著の魂のあつた技友賢

兩
河原の紙の授け露精

米
秋の月とあふ来友達友

書文の月と日月の賢

石のひやくとあふ入る精

酒醒て養育とあふ相友

いふや卒都の至る業平賢

数珠をよみぬは悟の縁
綱精

悟の聖アス道志乃初意友

之川内は踏み履の賢

東の野節と云は事知精

掌付子ある清濁友

董樹出し神と紫賢

秀逸と清志の叙高精

占階躍陽志の悟友

米 独トでよ月の罐ツクリ袋廻マる賢

酒サカベ押竿シの針ハとヒ 蘇ソ精シ

林ハヤシの氷ヒ河カ崖サの構ツクリとヒなヒて友

誰タレがナぞナと泡ウメの片カタ袖スリーブ賢

何ナニの記キと上ウ流リウの土ツチ産サンに執シツ家カ精シウ

本ホが結ムスぶるさサの松マツ友

手テ合アヒの香カ具グ泥ドロろロ下ゲの賢

あアのぬヌえエとトかカいイるル星ホシ精シウ

身事しんじ夢ゆめの家いへの切きり津つ渡わたり友とも

紅 蘇 石

益松五町末しんの風賢かぜけん

傳

性しやうのの古この例れい也や精せい

增

長者ちやうぢやうの門かどの清きよ塩しほの友とも

增

自みづから月つきのの下したの上うへの道みちの賢けん

晝ひる飼かひと味あじの早はやれの加かの精せい

紅葉もみぢ將まさの山やまの猿さるの道みちの友とも

米

列れつの海うみの家いへの優ゆう盛せいの賢けん

里居す清きを仕納屋精

増
杵奇風流江戸の野友

秋たぬ目好と筆に賢
濃香

楊子軒 今も書つる家精

孟冬晦日

山陰司の山陰止る山免車精

山陰

金の光まの山田の玉支

金田

世にまゝなる唐湯の
源又對 賢

おの唐湯の今日の中津精

大津ハ

おの山田の山免車精

山の山田の山免車精

おの山田の山免車精

色典香云

おの山田の山免車精

若生は因縁はくも縁合則て友

其々の縁のつゝ常徳常一賢

京都部よまゝの飽う根精

心身二意一解ありて友

大名の則口方は伽羅の鏡板賢

二蘇漢柱代は中此唐精

唐流の日本のは柄友

自よとらふと破帳月賢

神シツの雄子コ精シツ

足ツ福クも喜シ提テ整セ煩フ惱ノウ友トモ

心シン茶チャ三サンのノてテるル香カウ沈ゲ賢ケン

法ホウ下カるル香カウのノ精シツ

早サウ鶴カク代ダイ年ネン走ソウのノ音オン友トモ

鶴カク

尾ビ羽ウ抑ヨク深シのノ精シツ延エン賢ケン

花ハナ神カミのノ名ナのノ木キ藥ヤク子シ精シツ

林リンのノ精シツ友トモ

仲冬下一

各十二句言

倍四十八

九點之內

白字曹里一金袋一
銀袋一紫塵二
紅藍一朱一

友賢

倍六十五

皆點之內

固末三手一
金袋一銀袋一
紫塵二朱一
長一

露精

倍卅五

八點之內

白字曹里一銀袋一
紫塵一紅藍一
朱一

露友

金蘭
元法判の始ありて家傳の多る露精
蜀魂

金蘭
雪の臥と挿紀の少く霞

銀梅
一枝舊く之を幸ぬ梅ありて友賢

○
葉の崩き田邊垣精

経葉
鶯雛も梅とつやうはの張友

花の枝外花の狼藉賢

登臨
敵つ子社乃酒酣て精

翁とびる鳥慣よ白法友

金蘭
舞の初意安東の志賢
満目飛鏡

経葉
官と辞して 延慶の如き精

金蘭
主注の如き 和地越代給友

山青花欲燃
蜀魂

新十新 六川の末賢

代十よ月のおもひ 何守を精

花身に入る 詩も心友

登徒
空に屋形溝のねえ賢

金蘭
官悲の詩よまじ 誠友在精

ててあきて西日にあなほの法友

急いよと柳越す鞠賢

糸竹の母のまふふいよ言精

首の細く忠つよの文友
雪犯沙

あ結いよの思わらひいよ賢

悔いよと草薙す塚精

梅の葉は風経れぬ敷隠し友
山青花欲燃

瀟湘にほの秋の級京賢

李錦を安堵する月のみ
精

中程^{ハミ}で肥^{ハミ}をやせらる友

登藤
世父の鶴提^{ハミ}鷹^{ハミ}の首に鷹賢

金蘭
江月二^{ハミ}玉^{ハミ}の中^{ハミ}に習^{ハミ}ふ^{ハミ}幼^{ハミ}童^{ハミ}精

金蘭
如^{ハミ}君^{ハミ}子^{ハミ}誰^{ハミ}の^{ハミ}名^{ハミ}と^{ハミ}若^{ハミ}茶^{ハミ}の^{ハミ}男^{ハミ}水^{ハミ}友
雪^{ハミ}記^{ハミ}沙^{ハミ}

小羅て作^{ハミ}れ^{ハミ}録^{ハミ}の^{ハミ}小^{ハミ}枕^{ハミ}豊

経業
ま^{ハミ}と^{ハミ}と^{ハミ}日^{ハミ}本^{ハミ}に^{ハミ}鹿^{ハミ}の^{ハミ}鹿^{ハミ}岩^{ハミ}精

小^{ハミ}井^{ハミ}田^{ハミ}原^{ハミ}の^{ハミ}吐^{ハミ}き^{ハミ}の^{ハミ}牛^{ハミ}飼^{ハミ}友

季冬初三

各十二句言

倍五十三

皆點內

二字二
金菊二
紫藤三
紅葉二
長一
九二

露精

朱

倍百一

皆點內

卅點一
五字一
三字二
金菊一
紅葉三
長一
九一

露友

倍六十九

皆點內

四字一
二字一
金菊一
銀梅二
紫藤二
長四
九一

友賢

銀壹

織止狭一袖の衣配

蠅宗

室一もい一薰の梅の枝

朱

衣濁却る中枯るる心

蠅宗

風名銅一月の空

陣玉碁盤の玉橋のし

おの字の介好会

蠅字

新巻の内訖ん至り大田

沈巻の摺の能百車

朱

小町い今々全巻のみ

四巻五巻

蛇六銭の好漢多んや

鳥鳳

ふゆ松巻の度里は是法

蠅字

定家と詞を今にわかれか

金題

義の猿乃上へ腹中

かきくつたは海浦とよみお

蠟字

自他^ニとも。私痛昔^ニも

銀壹

淋^ニともく入^ニともぬかれ根

金貳

志^ニとも去^ニとも源^ニとも住^ニとも

西薬五経

培^ニとも月^ニの變^カとも去^ニとも鳥帽^ニとも

十分盃

海^ニとも書^ニとも意^ニとも浦^ニともい^ニとも浦^ニとも

急圓

あふれ^ニともた^ニともせ^ニともた^ニともた^ニともた^ニとも

楊徳登

文^ニのメ^ニり^ニともひ^ニともて^ニとも流^ニとも解^ニとも

四葉並経

梁の隈かよふまじ塔座トシキヨウ

楊徳泰

小斗のしほの拒の文入

五葉

蠅字

月代刺し上りまきり

蠅字

白山紙中折の角骨

金飄

窓のしりし先の縁

ね又しきの入吉栞の馬

鳥鳳

蜂胡蝶袖の端綴り

たばし流か筋サカシキ

魏宗

節季作大和司の餘因

蠅家

第壹より二と三

鳥鳳

おもしろき足利多る餘因

魏宗

小の権も門様

楊徳泰

は今日月七日の夜に

鳥鳳

の湯にふて晴春枯え

銀壺

おとらなをさるる中
の

あはれの中のかた

金剛

孫を乳母に女を

言いつた道が定む編

銀壺

物物で稽古の筆

鏡

交程筆とら一字に

十分查

蚤蚊の館園をり血と毒

蟬象

夢の睡の月の園

四家五経

烏町心の高なる練り

楊柳春

志脚備のまじり親り

此種を挿頭の花を枝系り

流の蝶 胡蝶羽のち

四家五経

高麗の龍のむすの刺

端象

水鏡裏のわあとの鏡分

朱
東堂の仙話文の書状

四夷通経

文峰一切一馬路

録書

紫雪の雪の源の姓

寫象

本信作三古凡今概

全題

味原は建平の樂の琵琶

録書

麴香に滅仙羅の注氣

寫象

孝民の威の守りて

四夷通経

女七人の女の書

蠟蒙

煉掃之磁に磨る白一

四更遠經

柱光澤を拭部摺

銀壺

柱を磨る短く白に延一

蠟蒙

柱を磨る短く白に延一

右獨吟

倍二百十一 露精

朱

くさくさ 糸の 匠の 拍子

鳥鳳

蛙 躍 風の 息付

朱

新 折て 世 重なる 刀

四雲 經

目 記乃 星 意 なる 夢

揚家

鶴 撃 尾 垣の 際 なる 風

縁 檉 登

坊 づゝ なる 白 雲 物 なる

金 觀

最 早 不 来 鏡 沈 水 鏡

茶 室 閑 なる 陸 奥 なる 庭

瑞雲

約な下ごしらえの癖が
人右

瑞雲

虫し梅の招神のね

瑞雲

たらの素魚の飽れほど
美く

瑞雲

ふきの穂も月丸の
お

鳥鳳

ゆるは子なること
物揚を

楊梅

池子の蓋とて
書梅

玉琴

西遊

お茶梅のよしの
餘情は

鳥鳳

人梅の
眼見の
百金

朱

一 湯力と聲 白糸の巻附湯

銀壺

遊可好のあはれと名号

十分金

法角の物と蛇骨の巻附

四安恵經

寺標とあはれと名号

楊梅茶

雙茶のあはれと名号

玉琴

京の遊可好とあはれと名号

目録と名号のあはれと名号

煙草

比雅凡話とあはれと名号

總家

一花のすゝめ 舟のなまめ

為圖

桑柘鳴し 沢を乃 籬

はの 様あたる し 娘

の ありの へ

録書

二つ 舟の 網

舟の 舟の 舟の

録書

舟の 舟の 舟の

舟圖

舟の 舟の 舟の

朱

十五 舟の 舟の



